



議会報告

ひたちなか市議会12月定例会は2日に招集となり、16日までの15日間と会期が決定されました。8日・9日と一般質問を行い、9日の本会議で議案の委員会付託が成され、13日に予算委員会、14日に各種委員会を開いて議案を審査し、最終日16日の本会議で採決を行って終了となりました。

■主な議決内容

予算を補正します

- ＜総務費＞・財産管理：那珂湊支所新庁舎建設工事文化芸能活動スペース増設工事費増額
・市民生活対策費：湊線延伸調査及び自動列車停止装置・踏切遮断器更新の前倒し実施
・市民活動推進費：好評な3世代同居支援の事業費不足を補うための増額
- ＜民生費＞・老人福祉費：在宅医療サービス基盤整備（訪問車両・医療機器の購入等）補助
・老人医療給付費：H27分の負担金（公費負担分）確定による清算
- ＜農林水産業費＞・漁港費：漁港の計画的保全と維持管理の為の整備、及び小川地区護岸工事負担金
- ＜土木費＞・道路維持費：国の補正によるH29年度予定分長堀橋補修の前倒し補正
・港湾建設費：国の補正による東防波堤岸壁、及び中央波除堤の工事前倒しの負担金
・都市計画費：県の建設事業変更に伴う公共下水道事業会計繰出し金の減額
- ＜教育費＞・小中学校管理費：国の補正予算によるH29年度予定分の勝倉小学校他12校及び勝田二中他4校のトイレ改修の前倒し実施
- ＜災害復旧費＞・都市公園災害復旧費：上坪浄水場下、小場江沿い法面崩落における災害復旧

個人番号（マイナンバー）の利用拡大を図ります

市が独自に行う事務に必要な個人番号を庁内で共用するための所要の改正をします。

勝田第二中学校の校舎を改築します

3号棟について改築工事を実施します。

子育て支援・多世代交流施設（仮称）の改修工事を行います

市が取得した旧サイエンスラボラトリーの間取りを、利用目的に沿って改修します。

常陸那珂港区内の埋め立てを承認しました。

公有水面の埋め立てについて、県知事より意見を求められたものについて同意しました。

常陸那珂港区内の埋め立て工事が竣工し、現有地への編入を行いました

埋め立てによって新たに生じた土地を確認し、当該地を大字長砂字渚に編入しました。

報告4件、議案18件・補正予算3件、条例制定7件、契約の締結2件、意見書関係2件
新たに生じた土地関連2件、人事案件2件（教育委員会委員、固定資産評価審査委員）

三世代同居・近居の促進

この少子高齢社会にあっては、子育て中の世代にとっても、高齢の世代にとってもメリットのある方向性のひとつ。年収に占める住居費の割合が25%を超えると家計が圧迫されるとするデータがある中で、総務省の統計では30代前半までは25～35%に達し、また55歳以降も25%を超える状況だと言います。従って特に同居と言うことで言えば、住居費に回す分がそのまま可処分所得の増加と同じ効果になり、大きな違いが出てきます。

ひたちなか市では、同居近居支援のため市外から転入して同居・近居を始める三世代家族に、住宅の取得・増改築・リフォームまたは賃貸住宅への入居費用の一部について助成金を交付しています。元からの市内在住家庭への支援ではありませんが、それらも含めて三世代同居・近居を促進するのも今後の課題です。



若年層の定着が活力を生む

若者の人口流出が地方の大きな流れとなっていますが、このことは取りも直さず街の衰退を意味します。前述のものと併せて、空き家問題や社会保障費問題、更には無縁墓地などの問題にもつながって行きます。進学を機に県外へ出てそのまま戻らないケースも非常に多く、魅力的な企業の誘致とそれが求める人材育成が可能な教育環境を作り、そこに地元回帰させるインセンティブが働く仕組みを作らなくてはなりません。

職の安定と、若者の結婚気運を醸成して定着を図ることが必要です。合計特殊出生率が2.08を下回ると人口減となることが言われていますが、現時点でこの数字の達成はほぼ奇跡に近い状況です。社会的制度を維持し、快適な暮らしを作るためにもこれらは喫緊の課題となっています。

魅力づくりと観光振興 ～魅力度最低は魅力度最高の裏返し～

住むに厳しい所は、様々な知恵によってそれを克服しようとします。結果それが土地の文化をつくり、むしろ味わいとなってきました。そしてこのことが尖った土地の魅力を創ることにつながっている訳です。本県の魅力度ランクは最下位ですが、裏返せばその意味で住みやすさには「折り紙」が付いているとも言えるのです。住みやす過ぎて取り立てて挙げる物が無いと言うのも贅沢な話、常陸風土記の中でもこの地は「常世（とこよ）の国」、理想郷だと言っています。しかしながら魅力度の尺度はひとつばかりではありません。海浜公園やおさかな市場には毎年200万もの人が訪れ、内2割はわざわざ外国からも来ると言いますが、水戸藩の台所として発展してきた歴史もあります。反射炉、いひん閣、観壽所（かんとうじょ）に山上門、更には十五郎穴や虎塚古墳など、せっかくある資源も最大限生きるように磨き、魅力を引き出して行かなくてはなりません。そしてそのことが郷土への誇りとなり愛着と定着にもつながり、また交流人口の創出にもなります。



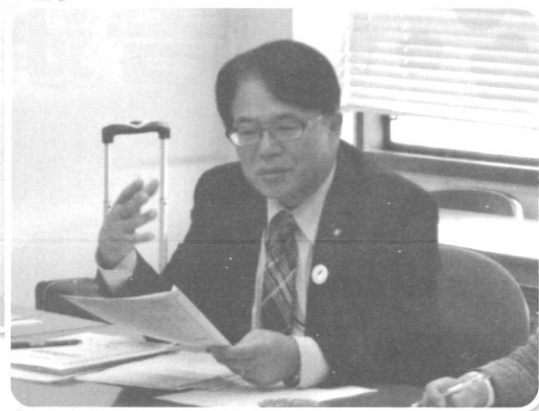
産業の発展と振興

港の効用は大きく、これと高速とが連結、今や北関東の一大経済圏を形成しつつあります。建設機械や自動車の積出港、またコンテナ輸送のターミナルなどとして企業が進出、工場も移転して来るなど雇用の拡大にもつながっています。定期航路は国内外合わせて16航路、取扱量もH27年度で1,078万トンと過去最高に達し、東京・名古屋・横浜港と軒並み取扱量が減少する中での注目度は高い。中央埠頭と南埠頭の完成は20年以上先ですが、去年は豪華客船アスカⅡも入港し、18,000市民の大歓迎で賑わいました。発展するひたちなか市の起爆剤となるこの港湾の整備は、伸び代大きく街の可能性を拓くことでもあります。

活動報告



行政調査（あきるの市）



行政調査（三島市）



12月議会予算委員会



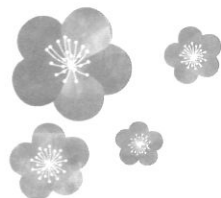
農道整備市毛津田地区国道6号隧道工事視察



特別委員会行政調査（反射炉）



出初式観閲



観瀾所からの初日の出

年末に発表されました日銀の短観では、県内の業況判断指数は6期ぶりにプラスに転じ、明るさを取り戻しつつあるようですが、さて本年はどの様になるのでしょうか。

本年は酉年、干支の酉（トリ）には古来より黎明を告げる吉祥動物「鶏」が当てられており、次代の扉が開かれて行く幕開けを予感させますが、一方ではそれだけに革命的な年回りとも言えることから、その方向性には先を見通した十分な注意が必要とも言われます。イギリスのEU離脱やアメリカのトランプ氏の動向など、政治は常に民（大衆）のものではありますが、はたしてポピュリズムのみで正しい選択が常に成されるかどうかは判りません。だからこそ本筋の見極めが大事になるのではないのでしょうか。経済も社会もあるいは地球環境も、自国の論理のみで語るができない中で、トリが吉祥であること、また正しい判断と舵取りのもと、本年が大きく発展する年であることを信じたい。

議会日程



3月

- 1日 本会議（開会）
- 2日 本会議（補正予算採決）
- 9・10・13日 本会議（代表質問・一般質問・議案質疑・委員会付託）
- 15・16・17・21日 予算委員会
- 23日 常任委員会
- 27日 本会議（閉会） ※詳細は議会事務局にご確認ください。

◎市政相談は、ふるさと21 大谷たかしまでご連絡ください。

<総務委員会・予算委員会委員長・議会広報委員会・議会運営委員会・ひたちなか東海広域事務組合議会議長>

〒312-0025 茨城県ひたちなか市武田885-2 TEL:029-271-1732 / FAX:029-271-1780

<http://www.ohtani-takashi.com>